

E-3 瀬戸内海島しょ部の生活環境に関する基礎調査—愛媛県ソーンの場合—

(2) 生活行動と交通手段

広島女学院大短大 ○島土田亮子 松山東雲短大 宮内貞子 田中幸恵  
桃山学院短大 佐々木いろみ 松山東雲短大 大原早苗

目的 前報に基づき、本報では周囲を海に囲まれて限界性をもつ島しょの島内、島外交通手段の特性及び交通手段が大きく影響を与えている生活行動(主に通勤、通学)の特性を明らかにしようとするものである。

方法 島内、島外交通手段と運行回数、自転車の保有台数、道路の現況、教育機関等は既存の資料の利用及び現地踏査を、各家庭所有の乗物の種類、利用目的等は調査票配布方法を用いた。調査対象地、対象者、時期等は前報通りである。

結果 (1) 島内交通は船から陸上交通へととって変わっており、その主要な陸上交通機関は民営バス、自家用車、自転車、タクシー等である。バスは島内の各集落に通じている。

(2) 島外交通機関はフェリー・ボート、高速船等で、以前に比べ寄港地が少なくなり、所要時間が短縮している。その運行経路は大半が石島しょ間と本州(尾道市)四国(今治市)航路間であり、大三島が本州と大島が四国との連絡便が多い。

(3) 島内バスと船の運行時刻上の連絡はほとんど認められない。

(4) 自家用車は営業、通勤に用いられ、保有の有無は職業との関係が深く、自営業者に最も多い。

(5) 義務教育機関在学生の通学地は島内で、大三島を除き徒歩または自転車通学である。